

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

佐井村長 太田 直樹

|                   |                    |  |
|-------------------|--------------------|--|
| 市町村名<br>(市町村コード)  | 佐井村<br>( )         |  |
| 地域名<br>(地域内農業集落名) | 原田<br>( 原田 )       |  |
| 協議の結果を取りまとめた年月日   | 令和6年3月15日<br>(第 回) |  |

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

### (1) 地域農業の現状及び課題

原田地区においては、稲作農家と転作として牧草を行っている農家が主となっている。  
牧草地については、牧野組合が刈取り等の作業を行っている。  
野菜の栽培もあるが小規模で、村の産直施設への出荷と自家消費が主である。  
今後は、高齢化により作業を行う人材の確保が問題となってくる。

### (2) 地域における農業の将来の在り方

牧草地については、牧野組合による作業及び牧草の利用によって管理していく。  
現状維持を目標に活動していく。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

### (1) 地域の概要

|                                  |          |
|----------------------------------|----------|
| 区域内の農用地等面積                       | 81.79 ha |
| うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積      | 29.12 ha |
| (うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】 | ha       |

### (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

|                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)農用地の集積、集約化の方針                                                                                 |
| 現状維持を目標とし、遊休農地の発生抑制に努める。<br>牧草地については、畑地化を活用していることから、牧野組合が管理・作業を行っていく。                            |
| (2)農地中間管理機構の活用方針                                                                                 |
| 農地中間管理機構の活用は考えていない。                                                                              |
| (3)基盤整備事業への取組方針                                                                                  |
| 補助事業による基盤整備事業は考えていない。                                                                            |
| (4)多様な経営体の確保・育成の取組方針                                                                             |
| 担い手となる牧野組合も高齢化がすすんでいる為、活動に興味がある人については、牧野組合の関係者を紹介する。<br>空き農地の活用の希望者が現れた際には、農業委員会が窓口となって所有者を紹介する。 |
| (5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針                                                              |
| 現在は特段活用を見込んでいない。                                                                                 |

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

|                                               |                                             |                                  |                                              |                               |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策 | <input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料        | <input type="checkbox"/> ③スマート農業 | <input checked="" type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等 | <input type="checkbox"/> ⑤果樹等 |
| <input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等            | <input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等 | <input type="checkbox"/> ⑧農業用施設  | <input checked="" type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等   | <input type="checkbox"/> ⑩その他 |

【選択した上記の取組方針】

- ①電気柵の設置や罠を使用し、引き続き対策を行う。  
 ④畑地化による農地管理、作業委託により、継続した活動を行う。  
 ⑦地区の有志による公共施設敷地内や農道等の草刈り作業を行う。  
 ⑨地区内で刈り取りを行った牧草を畜産農家が利用する。